

感謝

高知県 須崎市立須崎中学校 3年

村上 一矢 (むらかみ かずや)

僕は、母のお腹にいる時に「水頭症」という病気になり、生まれてすぐに手術をしましたが、ずい液がもれたことで足先に神経が通わなくなりました。そのため、生まれたときから、足首の感覚がないという障害があり、何も持たずに立つことができません。今は、生活のほとんどの場面で車椅子を使っています。生まれた時から障害があったので、僕自身はあまり気にしたことはありません。

保育園の時は、車椅子を自分でこぐというのは無理だったので、あまり使うことはありませんでした。使っても大人の手を借りることがほとんどでした。僕は、車椅子を使うよりも、家の中や保育園を這ったり、上半身だけの力で移動したりしていました。僕は、みんなと遊びたいという気持ちが強く、みんなも一緒に遊んでくれました。外で遊ぶことも多く、その姿を見た祖父が僕のために靴を買ってくれました。そのまま履いてもすぐに脱げてしまうので、脱げないように工夫もしてくれました。僕は、その靴のおかげで、みんなと外で遊ぶことができました。

小学校に入学し、学校での生活が始まりました。小学校では、担当の先生がついてくれて、移動など補助をしてくれました。車椅子の使い方に慣れていなかったのですが、たくさん迷惑をかけたと思います。でも、僕がみんなと同じように学校生活を送れるように助けてくれました。

今、小学校生活を振り返ると、僕はたくさんの友達にも支えられてきたと思います。最初は、「どうしたか。」と、聞かれましたが、すぐにみんなは障害に関係なく接してくれました。僕が何も言わなくても動いてくれたり、僕が何か頼んだ時は、嫌な顔やめんどくさい顔など一切せず、助けてくれたりしました。僕は、本当に嬉しかったです。友達や先生がいたから、足に障害があっても、みんなと同じように六年間運動会に出ることもできました。また、六年生の時には、修学旅行に行って楽しい思い出を作ることができました。

中学校でも同じです。僕は、たくさんの友達と先生方に支えられ、今、生活を送っています。僕は周りの友達や先生方、両親、祖父母にとっても感謝をしています。それは、障害がある僕に、普通に接してくれているからです。

でも、僕は来年の三月には中学校を卒業します。友達や先生が、いつまでも当たり前のように、僕のそばにいるわけではありません。これからは、一人で行えることを増やさなければなりません。今、僕の周りにはいる友達は、僕のことを分

かってくれているので、何も言わなくても動いてくれます。しかし、高校や社会に出れば、今までのようにはいきません。今でも、時々、周りが知らない人ばかりの時や、人混みに入った時などは、自分から、「すみません。」と、声をかけなくてはいけない場面もあります。僕はまだまだ一人で生活を送ることに対して不安がありますが、今まで僕を支えてくれたみんなのためにも頑張ろうと思います。

僕は今、車椅子バスケットをしています。きっかけは、小学校五年生の時の担当の先生が、障害者スポーツセンターのイベントがあることを教えてくれ、それに参加したことです。色々なスポーツを体験しました。そのイベントが終わった後、今僕が所属しているチームの高知シードラゴンズに声をかけてもらいました。初めて練習に参加した時は、車椅子同士がぶつかる場所や、車椅子ごとこけたりする様子を見て怖かったことを覚えています。また、シードラゴンズのメンバーが僕より年上の人ばかりだったので、打ち解けるのに時間がかかりました。でも僕は、車椅子バスケットが大好きで、どんなにしんどくても練習を休んだことはありません。他のメンバーにも支えられ、今では色々な試合に出ることができるようになりました。初めてシュートを入れることができた時は、本当に嬉しかったです。僕は、車椅子バスケットに打ち込むことで、自信もつきました。これまで、人前であいさつをしたり、発表をしたりすることが苦手でしたが、勇気を出して挑戦してみようという気持ちを持つことができるようになりました。

僕の今の夢は、二〇二〇年の東京パラリンピックに出場することです。とても大きな夢ですが、僕は目標を持って努力し、その夢を絶対に叶えたいと思います。今まで僕を支えてくれた周りの人たちに、僕の活躍する姿を見せたいと思います。

今まで支えてくれた友達や先生方、両親や祖父母、車椅子バスケットのメンバーへの感謝の気持ちを伝えるためにも、夢を実現できるよう、頑張ります。